



一隅を照らそう  
1月号

360号  
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



## 変わらないもの

住職 中島 有淳

新年をいかがお迎えでしょうか。  
本年もよろしくお願い申し上げます。  
毎年新年を迎えるにあたり、力強く一步を踏み出すような決意は何かと考えます。

その為には昨年の出来事を振り返って、思い出すとコロナ禍の影響も大分落ち着いて人々の反応も馴れて来たように思われます。

でも、印象として個人個人の格差と、人の考え方が割と自分本位になって来た印象が強いです。

お寺で生活していますと、お寺の持つ役割が「日本の文化」を継いでいく役目を果たしていると感じる部分が多いものです。

「聖と俗」「日常と非日常」「伝統と現代」仏道、花道、茶道、香道、等いわゆる〇〇道といった精神世界…。

自分にとって日本人として大切なものを考えた時、自分が周囲の方々と繋がっているその部分に出来るだけ光をあてていこうと思うわけです。それが「一隅を照らす」であったり、毎日のささやかな行動であったり…。自分が出来ることは限られており、小さな事でも積み重ねて大きな意味をもつことを知ります。

明るく元気で感謝し、宗教者の責務を意識しつつ足元を踏みしめて歩んでいきたいと思うのです。



## 祝 「神木山報」創刊三十周年

毎月二十八日に発行していますこの寺報が、お蔭さまで三十周年を迎えました。一枚だけのささやかな紙面ですが先代住職から現住職へと引き継ぎこの体裁のまま殆ど変わりなく歩んで参りました。

院内一同皆様のご愛読 心より感謝御礼申し上げます。  
今後共、充実した内容を目差し精進して参りますので、ご信援の程、お願い申し上げます。  
院内一同

折りふしのはな

雲龍柳(うんりゅうやなぎ)

明けましておめでとうございます

今年も龍年

龍神は

仏法を守護する

八部衆のひとつで

水をつかさどる といひます

願わくば

慈雨を以って

大地を潤し

法雨を以って

人心を潤し

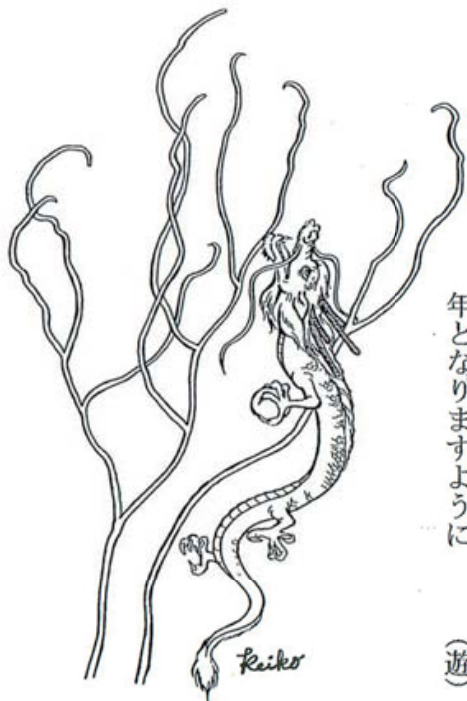
世界中に

優しさが満ちみちた

年となりますように

(遊)

2024



辰の年生れは性質勝気で気位高い反面感情に鋭く涙脆い。自分の力量を顧みず意外の失敗を招く。極めて変化ある運命である。夫婦の縁一度で治まらず癖を反省すれば良運開く。『天台こよみ』より

### 〈寄稿〉

創刊三十周年おめでとーございませう

等覚院 総代 井田 光政

三百号の寄稿より五年が経過いたしました。

お寺の新聞社として、各コーナーを院内の全員の手により発行される「神木山報」が創刊三百六十号を迎えられましたこと、誠にめでたく心温まる思いで一杯です。

世の中デジタル化の中で、身の回りの情報はPCを駆使したカラフルなものばかりですが、「神木山報」だけはいつでもこの体裁を変えずに発行していただきたいと考えております。誌面を手にした瞬間、静かな安心感を覚えるのは私ばかりではないと思います。

「神木山報」は皆さんが発刊を楽しみにしている貴重な紙面です。今後とも院内の皆様の総力で、更に充実した紙面になることを期待し、お祝いの言葉といたします。

山報を 創る 読む 世間 三方よし

(近江商人の経営哲学「売り手よし、買い手よし、世間よし」より)

裏面に続く

# 「マインドフルネス」の源流を辿って(中)

副住職 中島 光信

「エンゲイジド・ブッディズム(行動する仏教)」や「マインドフルネス(今ここの体験に意識を向ける)」を世に広めた、ベトナムの禅僧ティク・ナット・ハン師(二〇二二年に95歳で遷化)。師の本拠地である南フランスの「プラム・ヴィレージ」に二〇一八年の夏に滞在しました。

ここでの生活は、六時から坐禅、七時過ぎから朝食。午前の部↓昼食↓午後の部↓夕食↓夜の部とあって、その内容は毎日異なります。法話であったり、参加者同士の話し合いであったり、散歩に出かけたり。週の中日には「怠ける日」があつて、一日のんびりします。日々やるが多すぎるわれわれには、のんびりする日が必要、として、ハン師が提案したそう。

「すべてのものは存在する権利を持っています。嫉妬も、怒りも。それらを価値判断することはありません。ただそれに「気づく」ことです。」

尼僧院長シスター・チャン・コンによる、四無量心(慈・悲・喜・捨)のご法話より、印象的な一節です。

「悲しみや苦しみは沸き上がってきたら、すぐにそれを取り除こうとするのではなく、その感情がただそこに居ることを許すのです。そして時間をかける。そしてほほえみかける。そこに居るのを知っているよ、と。それが出来れば、それらは変わっていくかもしれません。」

ベトナム戦争を経験した女師は、家庭問題解決のスペシャリスト。実体験に裏付けされた語り口は、新鮮に私の心を打ちました。「次第に、自分の中に泥を見つけてしょう。大丈夫。そこから蓮が咲きます。」

そうだ。泥がなければ、蓮は咲かないのだ。

(続く)



## 行事案内

◎元日 令和六年甲辰歳(午前五時~午後二時)  
開運初護摩供厳修

※本年も「開運たねせん」を授与します  
◎一月八日 午後二時  
初薬師如来大護摩供

※秘仏 薬師如来御開扉(元日~八日まで)  
◎一月十二日 午後二時  
日本橋智泉院法要日(於:茅場町)

◎一月十八日 午後二時  
初観音経読誦法要(於:観音堂)

◎二月二十八日 午後二時  
初不動尊大護摩供

◎二月三日 午後二時  
節分会

◎息災護摩札

◎厄除護摩札(志納金 一体五千元)

◎盗難除お札 ○火防お札

◇自動車交通安全お守り(志納金 三千元)  
(前以て番号をお知らせ下さい)

\*毎朝 六時より公開で朝のお勤めをしております  
♪都合のよい時には「一緒にございませ

<2月3日の節分会につきまして>  
例年通り修法し、4年ぶりに追難式(豆まき)を実施します。  
檀信徒の皆様には1月中旬に葉書にてご案内致します。



# 緑の風だより

寺務局 坂口 英典

「緑を守る会」は、会員の高齢化もあつてメンバーも少人数ですが、今も月に何回かの作業をほそぼそながら実施しております。コロナ禍の期間中、樹木の世界にもコロナのような病が発生。それがナラ枯れ病でした。境内通路沿いのコナラは伐採しなければならぬほど大きな被害を受けました。

また、高齢化しつつある古木のツツジも只今養生中です。このように境内周辺の緑の環境もけつして万全ではありませんが、なるべく先延ばしにせず次世代の緑保全へ繋げていきたいと思います。そして、この森や境内が皆さんの憩いの場所となりますように、努めたいと思っております。

永久の未完成これ完成である

賢治

農民芸術概論綱要より

## ドキュメンタリー映画『旅する不動明王』製作進行中!

等覚院に江戸時代から続く「不動尊ご巡行」を題材にしたドキュメンタリー映画『旅する不動明王』の製作が進行中です。

等覚院には、毎年春に、お厨子に入った不動明王像を地域住民で持ち回る「ご巡行」という風習があります。こうした風習は一般に「出開帳」と呼ばれ、江戸時代には清涼寺(京都)の釈迦如来像、善光寺(長野)の阿弥陀如来像の出開帳が人気を博したとされ、現在の博物館展示もその延長にあります。「ご巡行」は、江戸時代から現代まで途切れずに継承されている点、「不動」尊像が他の地域に「動く」という点で全国的に珍しいとされます。

撮影のきっかけはコロナ禍でした。2020年より規模の縮小を余儀なくされ、長年お宿を勤めて下さっていたお世話人の方も、相次いで逝去されました。(いま記録して継承しておかないと、この伝統そのものが途絶えてしまう)、そうした危機感から少しずつ撮影を開始。時間じくして、新規に「お不動様をお招きしたい」という若い世代も現れ、その願いは2022年に初の東海巡行という形で結実しました。

コロナ禍の数年で、日本各地はおろか世界中で祭りや伝統行事が揺れる中、「ご巡行」はどうなってゆくのか。過去(その歴史)・現在(とりまく現状)・そして未来への展望を、一本の映像作品として発表します。現在撮影の7割程度が終了した段階で、撮影が終わると編集作業に移り、年内の完成を目指しています。こちらはまた改めてご案内致しますが、近くクラウドファンディングも公開予定です。

撮影、編集やデザイン、資金調達、配給、広報などなど、ノウハウのある方は是非お力をお貸し下さい。映画の完成へ向けて、皆様のご支援をお願い申し上げます。(監督/中島光信)

## あとかた

○明けましておめでとございませす。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。……………院内一同

○昨年を表す漢字は「税」でした。物価も上がり、増税やら減税やら、お金にまつわる話題が多かったからでしょう。

○米大リーグの大谷翔平選手のドジャース移籍が十年で七億ドル(二〇一五億円)、全スポーツ史上最高額の契約と報道。新天地での活躍が楽しみデス。

○昨年十一月、天台宗のハワイ別院の開創五十周年が現地であり、日本から約百五十名が参拝。同時に第三世住職田中祥順師の晋山式も催され、大いに賑わいました。今後の発展に期待!

○本年も地元の篤信者による「開運たねせん」が奉納されました。ご厚情に感謝御礼申し上げます。

○今年には寒暖差が激しく、体調管理に気をもむ年末年始ですが、梅が咲けばすぐに節分。「冬来たりなば春遠からじ」です。

○世の中分断化が進み、ニュースも深刻です。そんな中、穏やかな一年でありますよう心より願っております。

合掌